

魅力ある産地づくりに期待します

J A鳥取西部ブロッコリー一部会部会長 高見 達雄

○普及とともに一大産地を形成

大山ブロッコリーは昭和44年に水田転換作物として栽培が始まりました。品質の高いブロッコリーを安定供給するために、病虫害や度重なる気象災害を克服し、さらに輸入急増に対抗しながら周年栽培できる体制づくりを目指して努力してきました。このなかで、普及所が中心となって機械化の実証、病虫害防除の省力化といった規模拡大に必要な技術の組み立てと普及を行っていただきました。その結果、全国市町村別作付面積で大山町は全国第3位、西日本1位と一大産地を築いています。



○生産だけじゃない！多岐にわたる活動支援

ブロッコリー井戸端^{サポート}会議の活動や作業場の改善など生産以外の部分でも多くの支援をいただいています。ブロッコリー井戸端会議とは、大山山麓周辺で生産されたブロッコリーを生産者、J A、行政（普及所）が一体となって生産販売の取組を行い、大山ブロッコリー及び大山のブランド強化を目的とした組織です。普及所は井戸端会議の発足から携わり、J Aと普及所が中心になって、県内外の小学校や保育園での食育授業の実施、試食宣伝会でのPR、学校給食へのブロッコリー活用促進など様々な活動への支援を行っていただいています。またブロッコリーは収穫・調整作業が重労働であり、作業の軽労化や効率化が求められています。そこで作業場レイアウトや若手農家とベテラン農家の作業の違いなどの調査を基にした、効率的な作業場レイアウトや優良事例などを講習会等で紹介いただき、生産者の作業効率の改善につながりました。

○さらなる産地の発展を目指して

当産地は平成24年度に地域団体商標の登録、平成27年度には販売金額14億円を突破し、農家所得の増大を達成してきました。現在、消費者から信頼される安全、安心、高品質な出荷体制を確立するために適期収穫の励行、出荷規格、検査基準の遵守、生産履歴記帳と基礎GAP等に取り組んでおり、今後はさらに大山ブロッコリーを全国ブランドへと発展させるためにJGAP認証、GI取得を目指しています。

一方で、高齢化の加速等によって、産地縮小が危惧される状況となっており、この状況を打破するために、関係機関と協議を重ね、今後の産地ビジョンの策定を行いました。策定にあたっては普及所が中心となって関係者の合意形成や今後の方向性についてコーディネートしていただきました。今後はこの産地ビジョンに基づき、産地の生産構造改革とブランド力を発揮した力強い経営体づくりを進めたいと考えています。併せて、近年頻発し減収要因となっている気象災害等に対応する生産体制を構築したいと考えていますので、引き続きご支援を賜りますようお願いいたします。

○普及員に期待します！

生産部はJ A、行政機関と密接に連携し、一体となって産地振興しており、普及所は産地に無くてはならない存在です。農業を取り巻く環境は目まぐるしく変化しています。普及所は単なる技術の普及指導だけでなく、県、町、J Aからの情報を農家に伝達するなど農業行政の総合窓口としての役割もあると思います。農家に一番近い行政機関として普及指導と良きアドバイザーとしての活動に期待しています。